

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。木枯らしが吹きすさぶころとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょ

うか。コロナ禍の中暗いニュースばかりが続く中、大リーグの大谷翔平氏が日本史上イチローに続く二人目の満票での最高荣誉MVPに輝いたニュースに日本人として誇らしく思いました。明るい未来を願ってやみません。忙しい年末ですが、お体に気をつけてお過ごしください。

サンライズの物語

歳を重ねることは、失うことだけじゃない——

家族について考える物語



その方は、先日106歳のお誕生日を迎えた方です。利用している施設での誕生日会に私も出席させて頂いたのですが、ケーキをペロリと食べてしまい、次女さんに「可愛いね」が合言葉、とてもチャーミングな方です。

お若い頃女学校時代はセーラー服を着ていたとの事。まさに漫画の「ハイカラさんが通る」を地で過ごされ卒業したのでした。以前は人が分からない文字を書くのが好きと話され、英語や変形かな文字をいつも書いて下さっていたのでした。

銀座の電通で日本髪を結いお着物姿での写真を見せて下さいました。ご主人を57歳で亡くし女手一つで三人の子供さん達を育て、今は次女様のご家族と一緒に過ごされております。



次女様のご主人も素敵な方で何時も「家のおばあちゃんは凄い人で大した人ですよ」が口癖で自宅での介護もご主人と次女様二人三脚でトイレまで誘導したりしている方です。

足立区では106歳（男性1名・女性1名）107歳（男性1名・女性2名）らしく、次女様が、目指せ！足立区長寿一番と話されていたのが印象的でした。

年を重ねる事は一つずつ何かを失うことでもありますが、失うことよりも得るものも沢山あるのだと、素敵な家族と一緒に生きる「きくさん」を見て想いました。

サンライズのデイサービス陽光だより



Bigカルタで真剣勝負！

大きなサイズの“ことわざカルタ”をお手玉を投げて取ります。

『花よりだんご〜』や『身から出たサビ〜』など…聞き逃さないよう耳をすませて皆さん真剣です！

取り札が少なくなり、読み手がわざと無い札を読むとお手付きが連発していました！

ことわざの意味を教えて下さったり大変楽しく勉強させていただきました。

デイサービス陽光では、この他にもいろいろな楽しいレクリエーションを実施しています！



NEWS 今月のニュース

80歳の介護士、特養での介助てきばきと「毎日どうやって喜んでもらおうか考える」

10月で80歳を迎えた興津一博さん＝兵庫県明石市＝は週4日程度、市内の特別養護老人ホームに出勤する。セカンドキャリアとして63歳から歩み始めた介護士の道。「美空ひばりや片岡千恵蔵ら昭和の名歌手、名優の話題と一緒に盛り上がりませ」と興津さん。介護の仕事はもちろん、車いすのメンテナンスなど身に付けた多彩な技能をフル活用して利用者の生活を支える。（有富晴貴）

興津さんは中学校を卒業後、遊覧船運航会社に就職。エンジンなどの機械整備や船を操縦する機関士として勤務。2004年、62歳で定年退職した。

「今まで仕事ばかりだったのに、ずっと家にいたら妻も困るのではと思った」と興津さん。何か打ち込めることはないかと新聞をめくっていると、ホームヘルパー2級講座の広告が目にとまった。

機関士の仕事をしながら、実母の

介護をしていた経験から興味が湧き、すぐさま受講の手続きをした。当初は介護士として勤めるつもりはなく「自分も妻も年を取っていくし、勉強だけしておこうと思っていた」。ところが講師の熱のこもった指導に感化され、同講座を開いていた社会福祉法人三幸福社会（明石市大久保町大窪）に“スカウト”される形で05年、新たな職に就いた。

以来、特別養護老人ホーム「清華苑」で介護士として働く。12年には70歳にして国家資格の介護福祉士を取得。「より一層高度な業務に従事したい」という思いを实らせた。

現在の主な業務は入浴の介助や、ベッドと車いす間の移し替えなど。食事を介助するときは、利用者笑顔で「大丈夫ですか」と声をかけながら、慎重にスプーンを口元に運ぶ。

車いすのブレーキが利きにくくなったときや、タイヤがパンクしたときは興津さんの出番だ。機関士の経験を生かし、てきばきと分解、部品を交換する。同僚の職員は「興津さんが仕事をしている姿そのものが、同年代の利用者さんに元気や張りを与えていると思う」と話す。

80歳を過ぎても仕事を続ける意欲は、通退勤路で湧いてくるという興津さん。「仕事に向かう途中は、今日はどうやって喜んでもらおうかと考える。帰り道ではあの人に喜んでもらった、良かったと思返すんです」

はつらつとした笑顔を振りまく興津さんだが、昨年からの体力の衰えを感じ始めたといい、いつまで仕事を続けられるか分からないという不安も。「命を預かる仕事。先のことを考えるより、毎日ミスをしないうことを徹底したい」。自らに厳しく、日々新たな気持ちで介護の現場に立ち続ける。



元機関士。車椅子の整備をするのはお手のもの

<神戸新聞NEXT2021/11/12(金)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>